

アルファ・ロメオ ジュリエッタ・スプリント

イタリア / 1954



第二次世界大戦後のアルファ・ロメオ社は、それまでの高級スポーツカーを限られた顧客に向けて製作・販売する事業形態から、現在の量産メーカーへと抜本的な転換を図ろうとしていた。このような状況のもと、アルファ経営陣の期待を一身に浴びて生まれたジュリエッタは同社にとって初めての経験となる大衆車だが、オラツィオ・サッタ・ブリーガ率いる技術陣はいかにもアルファらしく、当時の常識では考えられないほどの贅沢なメカニズムを与えた。オールアルミ製DOHC4気筒5ベアリング。現代でこそ特に珍しくもないスペックだが、1950年代の常識では並のレーシングマシンを上回るほどの驚異的な仕様である。ボディは新進気鋭のスタイリスト、ベルトーネのフランコ・スカリオーネ、そしてギアのベテラン、マリオ・ポアーノがそれぞれ基本デザインとそのリファインを担当。イメージリーダー的な役割が期待されたこの美しいクーペ「スプリント」は54年トリノショーにて、シリーズの主力モデルたるベルリナーナに先立ってデビューすることになる。翌年には2基のツインチョークウェバー・キャブレターでチューンアップされた高性能版、SV（スプリント・ペローチェ）も登場するが、特に初期のモデルはアルミを多用した軽量ボディの純レーサーであった。また、このジュリエッタ・スプリントのフロアパンからはカロツツェリア・ザガートが自主製作したレーシングGT「SVZ」も生み出され、'59年にアルファ・ロメオの正式生産車としてデビューするSZの思想的な前任モデルとなる。'59年、大規模なマイナーチェンジが行なわれ、101系ジュリエッタに発展する。

ジュリエッタ・スプリント

エンジン

搭載位置	フロント縦置
種類	ガソリン 4サイクル
冷却方式	水冷
シリンダー配置	直列
気筒数	4
バルブ形式	DOHC
排気量(cc)	1290
最高出力(PS/rpm)	80 / 6300
最大トルク(mKg/rpm)	11.0 / 4000
燃料容量(Ltr.)	53

駆動方式

駆動方式	FR
変速機	4速MT コラム

シャシー

サスペンション 前	独立 ダブルウィッシュ ユボーン コイル
サスペンション 後	独立 トレーリングア ーム コイル
ブレーキ 前	ドラム
ブレーキ 後	ドラム
タイヤ	155-15

ボディ

構造	モノコック
ドア数	2
全長(mm)	3980
全幅(mm)	1535
全高(mm)	1320
車両重量(kg)	880
乗車定員(名)	2+2

性能

最高速度(km/h)	165
------------	-----